

## 野菜



## 春インゲン今後の管理

これからの時期は、ハウス内温度、湿度共に高くなってきます。このため、灰色カビや、品温の上昇による蒸れ等発生しやすくなりますので、防除や収穫後の管理、換気等は注意をお願いします。

### 温度管理

15～25℃で日中30℃以上にならないように注意してください。

### 灌水・追肥

極端な乾燥は、収量・品質に影響するので、着莢後は少量多回数の灌水を行いスムーズに太らせます。草勢を見ながら行き、後半は液肥で行います。

- 例) 穴肥            アサヒエース  
液肥            トミー液肥ブラック等 (500倍)  
葉面散布        メリット青 (500倍)



**野菜**  
宮内 勝幸  
上島営農指導センター  
090-2584-9498

### 摘葉

摘葉は収穫を行いながら行き、老化葉・病葉・込み合う葉を摘葉し通風、採光を良くし、病害虫の発生を抑制しましょう。一度に沢山摘葉をすると樹勢の低下につながるため注意が必要です。

### 病害虫防除

ヨトウムシ類、マメハモグリバエ、スリップス等

農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数	対象病害
アフーム乳剤	2000倍	収穫前日	2回	マメハモグリバエ
プレオフロアブル	1000倍	収穫前日	2回	ハスモンヨトウ、ハモグリバエ
カスケード乳剤	2000倍	収穫前日	2回	マメハモグリバエ
バダンSG水溶剤	1500倍	収穫前日	3回	マメハモグリバエ

### 灰色カビ病

農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数	対象病害
セイビアーフロアブル20	1000～1500倍	収穫前日	3回	灰色カビ、菌核病
アミスター20フロアブル	2000倍	収穫前日	3回	灰色カビ、菌核病

## 果樹



## 5月の柑橘園管理



### 果樹

白石 一斗  
上島営農指導センター  
080-1729-1631

### 1. 病害虫防除

時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	備考
上旬～中旬 (開花期間)	ケシキスイ類 コアオハナムグリ	モスピランSL液剤	4,000倍	
	灰色カビ病	ファンタジスタ顆粒水和剤	4,000倍	
中旬～下旬 (開花盛期～ 落弁期)	ホコリダニ	ハチハチフロアブル	2,000倍	
	黒点病	ナティープフロアブル	1,500倍	

※養蜂が行われている地区では、周辺への飛散に注意して下さい。  
※灰色カビ病、そうか病対策でフロンサイドSC(2,000倍)も使用可能です。  
※花のバラつきがある場合は、ホコリダニの防除でアブロードエースフロアブル(1,000倍)を使用して下さい。(カイガラマン類同時防除)

○エクシレルSEのカンキツ苗木・幼木の処理について(高濃度散布 100倍)

・春芽は通常防除を行い、夏芽の発生に合わせて使用しましょう。

#### 1) 処理のタイミング

- ① 夏芽が出る間近に、苗木全体に散布。  
(春芽全体に散布する。特に夏芽が出る部分。)
- ② 夏芽が出た直後に散布。



#### ③ 夏芽が出てから全体に散布。



散布量 (1樹あたりの目安)	
○1年生	70～100m0程度
○2年生	150～200m0程度
○3年生	200～300m0程度
全体にムラなく散布してください。	

#### 2) 散布の注意事項

- ① 高濃度散布の場合は、液肥や農薬との混用は避け、結果樹には絶対にかけないでください。  
② ユキカナギラブラムシ(別名:ミカンミドリアブラムシ)には登録無し。効果も劣ります。

### 2. 葉面散布

発芽～開花期は前年の貯蔵養分で活動します。新梢の充実と養分補給の為、チッ素主体の葉面散布を行いましょう。また、展葉後は早期に緑化を促進させる為、マグネシウムの葉面散布を行いましょう。

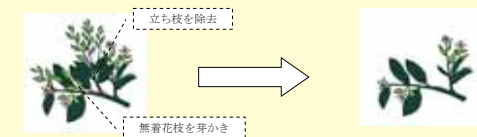
時期	薬剤名	希釈倍数	備考
新梢伸長期 ～開花期	尿素	500倍	樹勢維持 (いづれかを使用)
	アミノジューシー N14 神協スピリッツ		
	ジュシーカル	800倍	新梢充実
展葉期 (4～6月)	葉面マグ	200倍	緑化促進 苦土対策

### 3. せん定の実施(蕾が小豆～大豆大の頃)

新梢の発生により被さり枝がある場合は、花に日が当たるように除去しましょう。

#### ○花が少ない場合

徒長枝の除去や無着花枝の芽かきを行い、着果促進を図りましょう。



#### ○花が多い場合

先端部の弱い新梢を除去する。  
着花が多いと予想される園では樹勢維持の為、花肥えを行いましょう。ハイヤ1号 1袋/10a



### 4. 着果対策(かんきつ)

ジベレリンの散布・・・ジベレリンを散布する事により、着果性が向上します。主に赤道部を中心に散布しましょう。尿素を500倍加用する事により効果が上がります。

○使用時期・・・開花～満開10日後(開花後処理時期が早いほど効果が高い)

○ジベレリン希釈表(開花期 25ppm)

ジベレリン液剤	40mlの場合	水 8Lに1本	尿素 500倍(16g)	使用液量 10a当たり
ジベレリン液剤	100mlの場合	水20Lに1本	尿素 500倍(40g)	50～100ℓ

### 5. 施肥

対象品種	時期	肥料名	施肥量
早生、中熟、普通温州	5月下旬	熊本果樹肥料10-7-4 又は ひのくに果樹9-3-3	4袋/10a



# あわ栽培について



中原 英幸  
下島営農指導センター  
080-1729-1629

JAあまくさ管内で、夏場の品目として出荷されています。  
見た目は猫じゃらしが巨大化したような感じで、緑色の清涼感のある品目です。  
市場へは夏場の商材として取引しています。  
栽培的にはさほど難しくありません。  
直売所ではなく市場向けの出荷としての品目です。

作型/月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
5月出荷			○	—	—	—						
6月出荷				○	—	—	—					
7月出荷					○	—	—	—				
8月出荷						○	—	—	—			
9月出荷							○	—	—	—		

<品種>

種苗会社: 福花園

1dl詰・1袋/約24,000粒  
(約2a分程度)

①極早生大房あわ(早出しから遅出しまで可能)

②紅くじゃく(穂が赤く染まる)

③ハツ房あわ(花穂の先端が分かれる珍しい品種)

※JAあまくさでは、①の品種が100%出荷で他品種は栽培も出荷もありません。

<適地性>

日当たり、風通しが良く、排水良好な圃場が適します。

<元肥>

堆肥を1a当り土作りに200kg投入します。基肥は窒素、リン酸、加里を各成分で1a当り約0.8~1.4kg程度施用します。

<定植及び管理>

畝幅75~80cmに株間15cm、条間15cmの4条で直播します。播種量は1ヶ所に5粒播きとし、播種後、軽く覆土します。覆土後は十分灌水します。

フラワーネットは1段とし、15cmの5つ目とします。フラワーネットの目に播種するかたちとなります。

中央の目は灌水チューブを設置します。

発芽まで4~7日かかりますので、発芽するまで土壤が乾かないよう管理します。

発芽後は土壤が乾いたら灌水します。

ある程度、芽が大きくなったら3本仕立てになるよう間引きします。

密植しすぎると茎が細くなり、ボリューム不足の原因となるので注意します。

<病害虫>

病気についてはさほどありませんが、夏場の栽培ですので害虫の防除は定期的な早めに行います。

<栽培注意点>

密植栽培はボリューム不足となりますので密植栽培は避けてください。

灌水不足は草丈が短くなるので十分灌水ください。

<規格>

階級	草丈	1ケース当り重量(kg)	結束	箱詰本数	花	茎	草姿	病害虫
等級	2L	90cm	4kg以上	10本	100本	切り前適	曲がりがないもの	バランス良好でボリュームあるもの 認めないもの
	L	80cm	3kg以上	10本	100本	前適	正しいもの	
	M	70cm	2kg以上	10本	100本	適	正しいもの	
	S	60cm	1kg以上	10本	100本	もの	正しいもの	
収穫	切り前は、穂の長さが7cm程度。							
調整	下葉は除去は全体の1/3の葉を取り除く。葉の長さは、10cm程度に切りそろえる。 穂部分の葉は、穂が半分以上見えるように切り揃える。							
選別	出荷規格に従って良心的な選別に努める。規格とおりでない場合、等階級格下げとする。							
結束	よく揃ったものを10本選び、穂の先端部分をそろえる。							
水揚	しおれないように水揚げを行う。							

※わからない点がありましたら、上下営農センター花卉担当までご連絡ください。



# 農作業メモ



吉田 義文  
指導販売部  
0969-22-1105

中干し後の水管理

中干し終了後(平年5月末日)から穂ばらみ期前までは、  
間断灌水で管理し、水と空気を根に補給し根の活力を上げ登熟向上に努めてください。

穂ばらみ期から出穂期にかけては稲の体力消耗が激しくなりますので、深水管理を行いましょう。

穂肥施用

6月上旬より幼穂の観察を行い、穂肥の施用時期を見つけてみましょう。畦から1畝以上水田に入り標本を採ります。標本は株の最長葉の茎を一枚のほ場から3株以上取ります。茎は一枚ずつはいで、幼穂の長さを測ります。長さが1.0~1.5ミリの頃に穂肥を施用します。

穂肥の目安(出穂前25日前後 ----- 幼穂長1.0~1.5ミリ)

稲の葉色を見て適正な量を施用してください。

葉色	4未満	4以上4.5未満	4.5以上
有機苦土047	15kg	10kg	施用しない

葉色の判定は、葉色板(カラスケール)を使用してください。  
太陽を背にして稲の葉色を見ましょう。

病害虫防除

特別栽培においては防除回数が限られていますので、健全な稲作りと畦畔の草刈り等や、ほ場の見回りの徹底による耕種的防除と組み合わせた適期防除に努めてください。

防除の際は、使用基準を遵守し飛散等のないよう心がけるとともに、栽培管理台帳への記入もお願いします。